



仙波糖化工業株式会社

証券コード：2916

2025年3月期 決算説明会資料

2025年5月30日

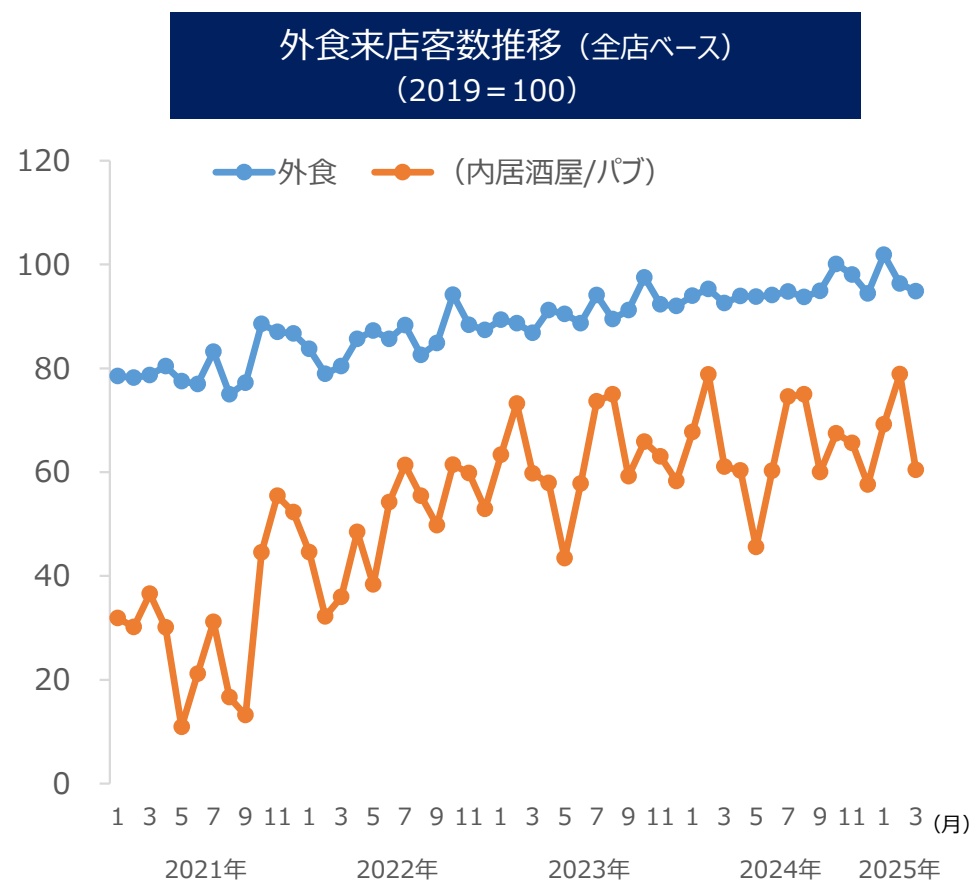
目次

I	2025/3期の決算概況	P 2
II	企業価値向上に向けて	P15
III	2026/3期の業績予想	P23
	参考資料	P27

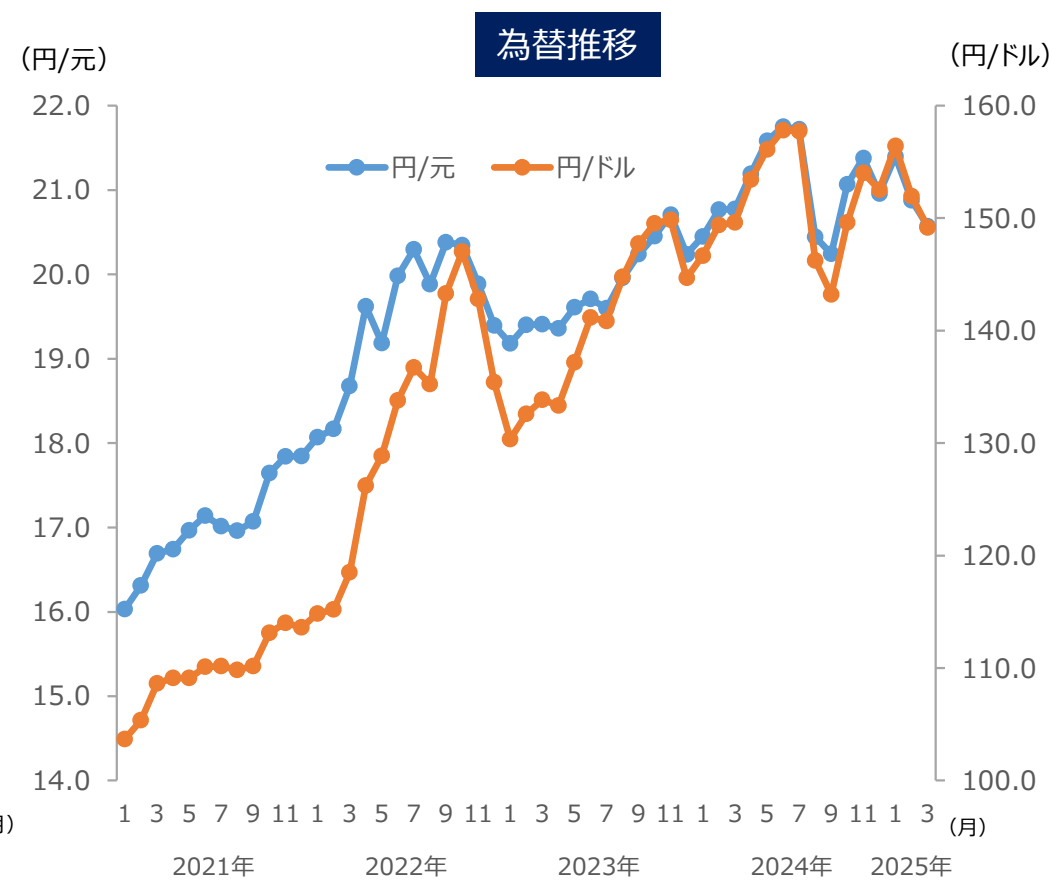
I 2025/3期の決算概況

外食来店客数は、新型コロナ禍以前に戻りつつあるが、居酒屋/パブの回復はやや停滞感も

昨年秋口から円安基調が継続していたが、米国の関税政策の影響により先行き不透明感増大



（出所）日本フランチャイズチェーン協会、日本フードサービス協会



（出所）日本経済新聞

- ✓ 売上高は、ヘルスケア商材受託の減少と海外子会社連結除外の影響で2.3%減収だが、事業継承ベースでは2.9%の増収
- ✓ 営業利益は、値上げ効果および経費削減等により、9.4%の増益

(単位：百万円、円)

	2024/3期		2025/3期			
	金額	前期比	金額	前期比	従前予想	予想比
売上高	19,137	+2.8%	18,701	▲2.3%	19,200	▲498
営業利益	690	+156.2%	755	+9.4%	880	▲124
経常利益	755	+94.0%	816	+8.1%	900	▲83
親会社株主に帰属する 当期純利益	495	+112.7%	319	▲35.5%	650	▲330
1株純利益	43.52	-	28.08	-	57.09	▲29.01
設備投資額	576	+164	741	+165		
減価償却費	932	▲42	817	▲115		
研究開発費	271	+21	300	+28		

製品区分別売上実績

2025/3期実績

- ✓ 自社商材は、粉末茶の伸長、デザート向けカaramel製品が堅調で7.7%増収
- ✓ 受託商材は、ヘルスケア商材の減少に加え、龍和食品連結除外の影響で20.0%減収

(単位：百万円)

	2024/3期		2025/3期		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	伸び率
売上高	19,137	100.0%	18,701	100.0%	▲436	▲2.3%
カaramel製品	4,231	22.1%	4,518	24.2%	+287	+6.8%
乾燥製品類	6,184	32.3%	6,953	37.2%	+770	+12.4%
組立製品類	3,763	19.7%	3,240	17.3%	▲523	▲13.9%
冷凍製品	3,782	19.8%	2,854	15.3%	▲927	▲24.5%
その他	1,175	6.1%	1,133	6.0%	▲41	▲3.6%
自社商材	12,249	64.0%	13,191	70.5%	+942	+7.7%
受託商材	6,888	36.0%	5,509	29.5%	▲1,379	▲20.0%
海外売上高	1,795	9.4%	656	3.5%	▲1,179	▲65.6%

(為替レート)

円/元

円/VND

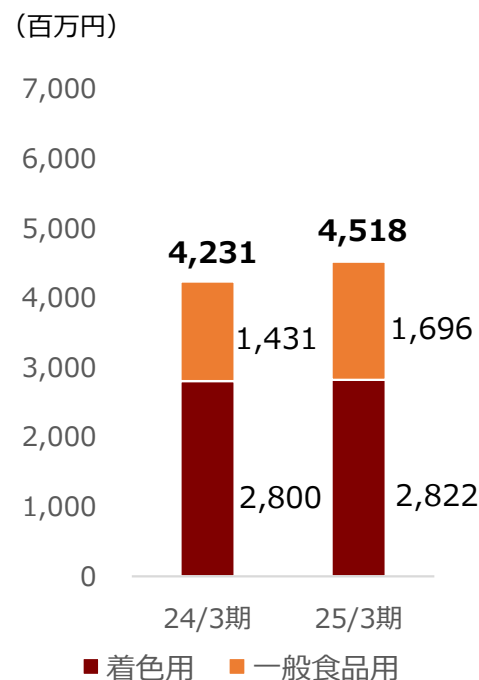
19.82

0.006022

21.02

0.006187

カaramel製品



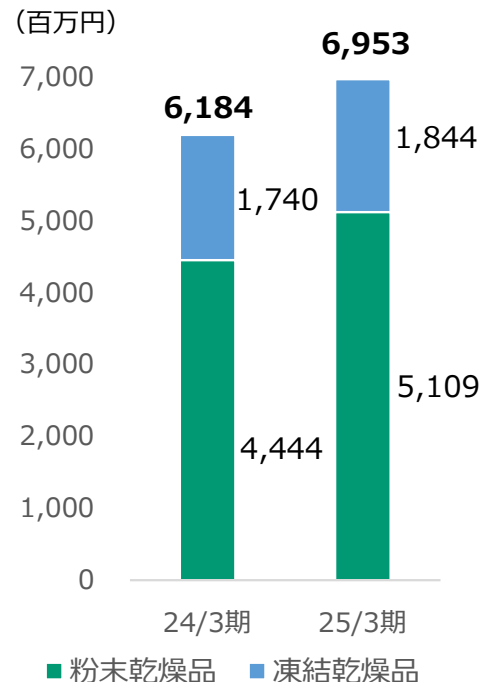
一般食品用

- ・プリン向け需要堅調
- ・新製品の拡販効果

着色用

- ・国内堅調で微増

乾燥製品類



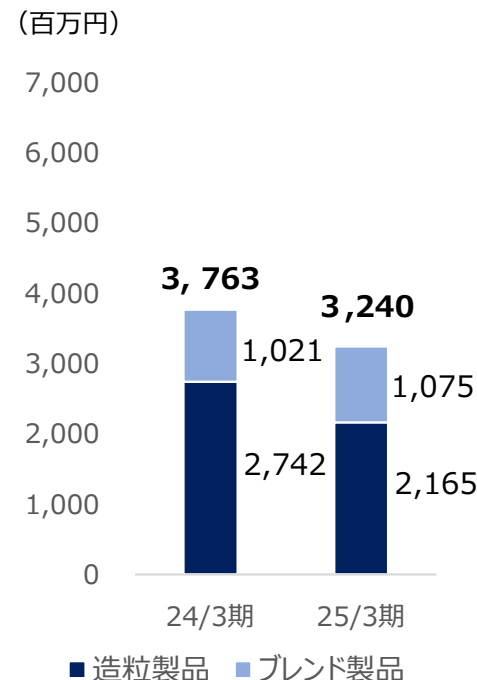
凍結乾燥製品

- ・国内の即席麺向けが回復

粉末乾燥製品

- ・粉末調味料類が堅調
- ・粉末茶需要回復し増加基調

組立製品類



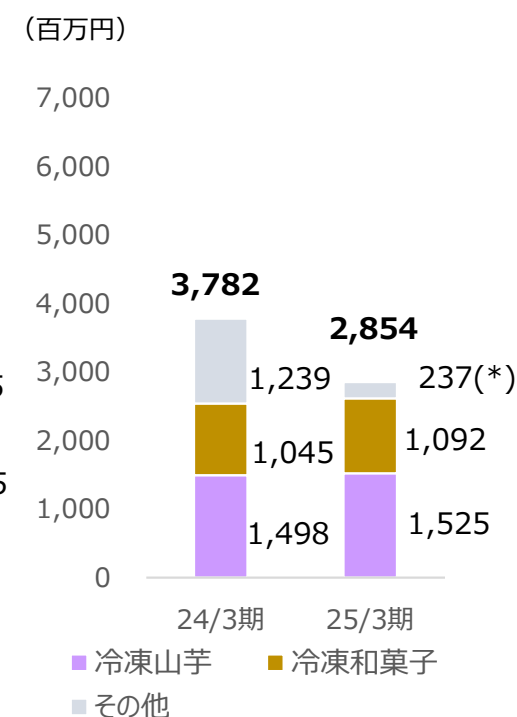
ブレンド製品

- ・スープ類やソースが堅調

造粒製品

- ・スープ類の受注が増加するも、ヘルスケア商材受託が大幅減

冷凍製品



その他

- ・中国の冷凍デザート減少(*)

冷凍和菓子

- ・どら焼き・ドームケーキ堅調

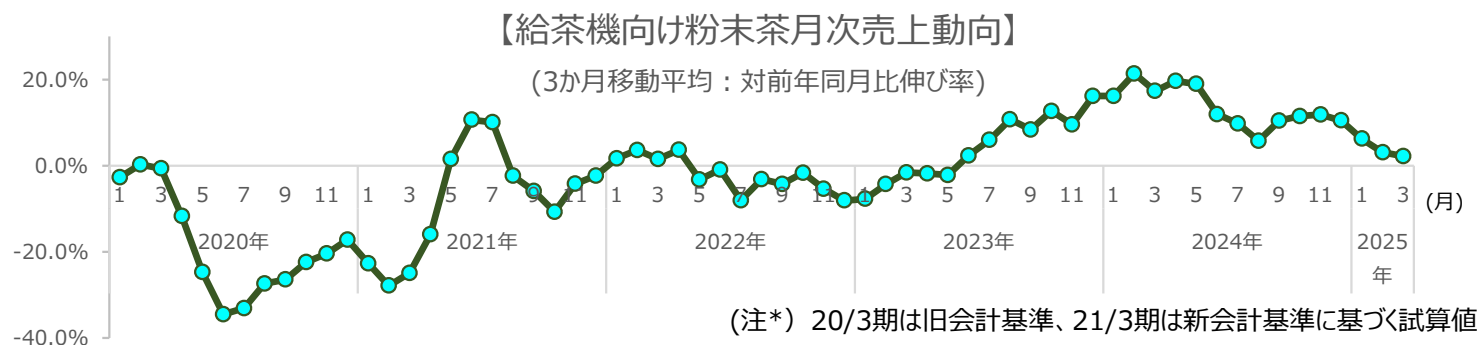
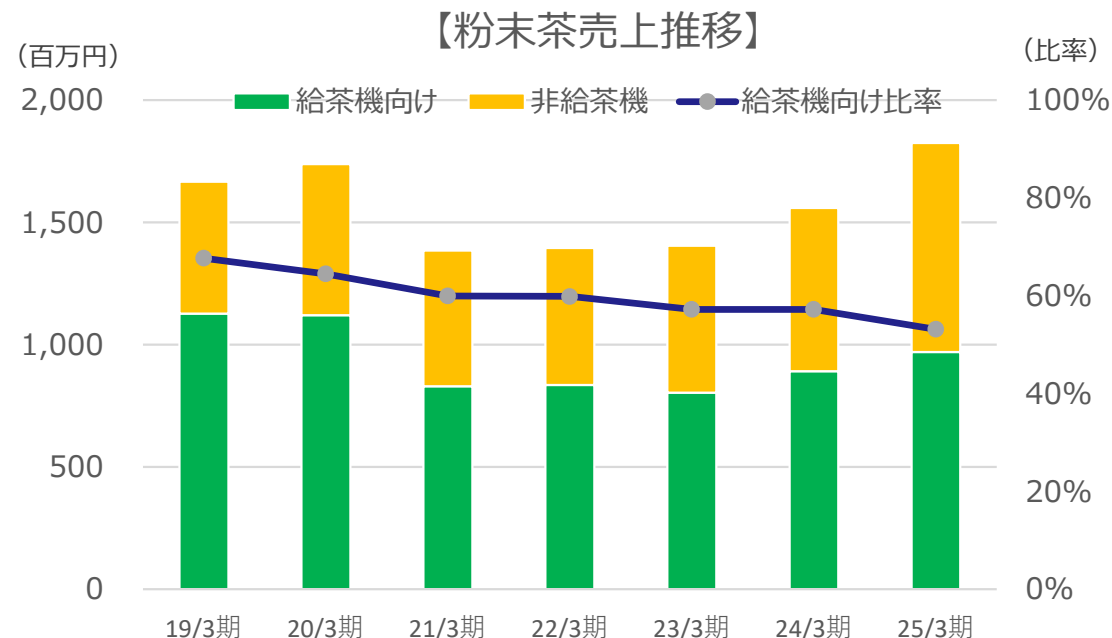
冷凍山芋

- ・CVS向け需要増加

(注*) 龍和食品の連結除外の影響

①粉末茶

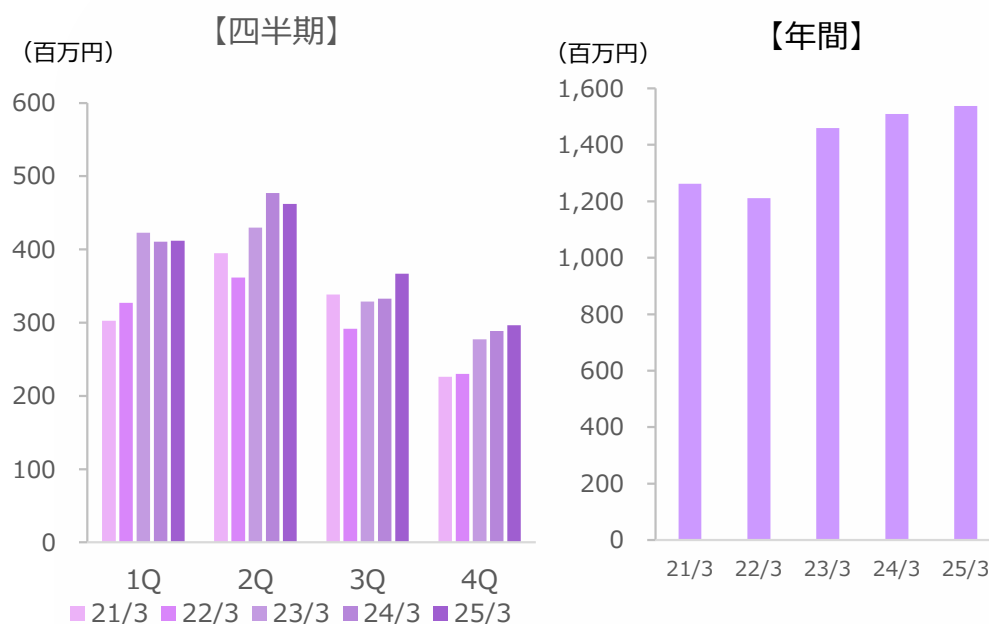
給茶機向けは緩やかに回復基調もコロナ禍前の水準には届かず
全体では、非給茶機向け商材が伸長し、売上高は過去最高額



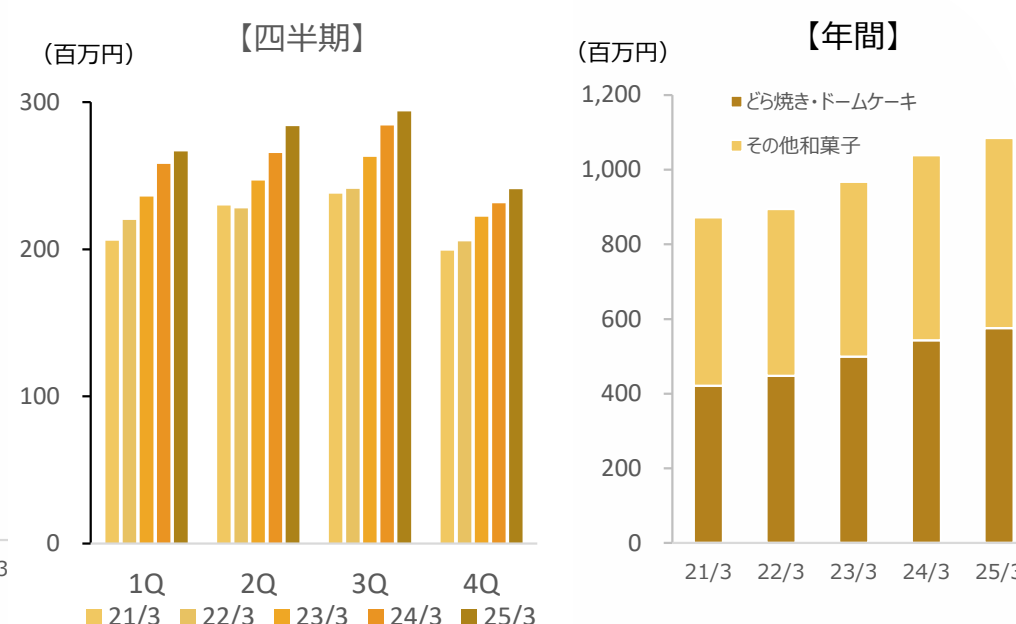
②冷凍製品

- ✓ 冷凍山芋は、天候要因やインバウンド需要等もありCVS向けが牽引
- ✓ 冷凍和菓子は、どら焼き・ドームケーキが堅調に推移

冷凍山芋売上高

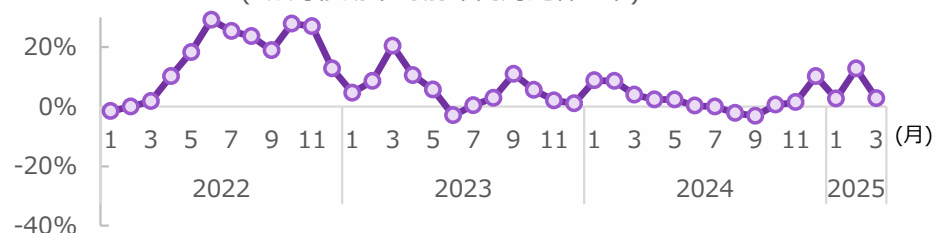


冷凍和菓子売上高



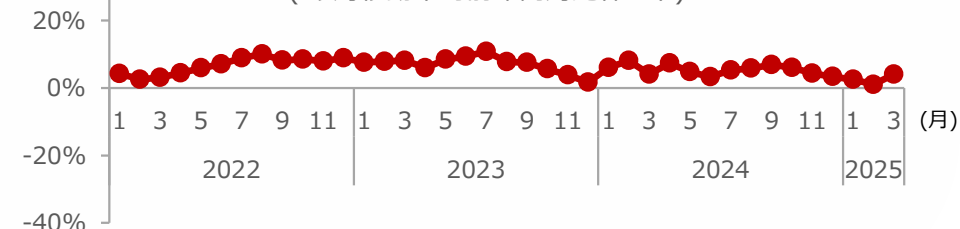
【月次動向】

(3か月移動平均前年同月比伸び率)



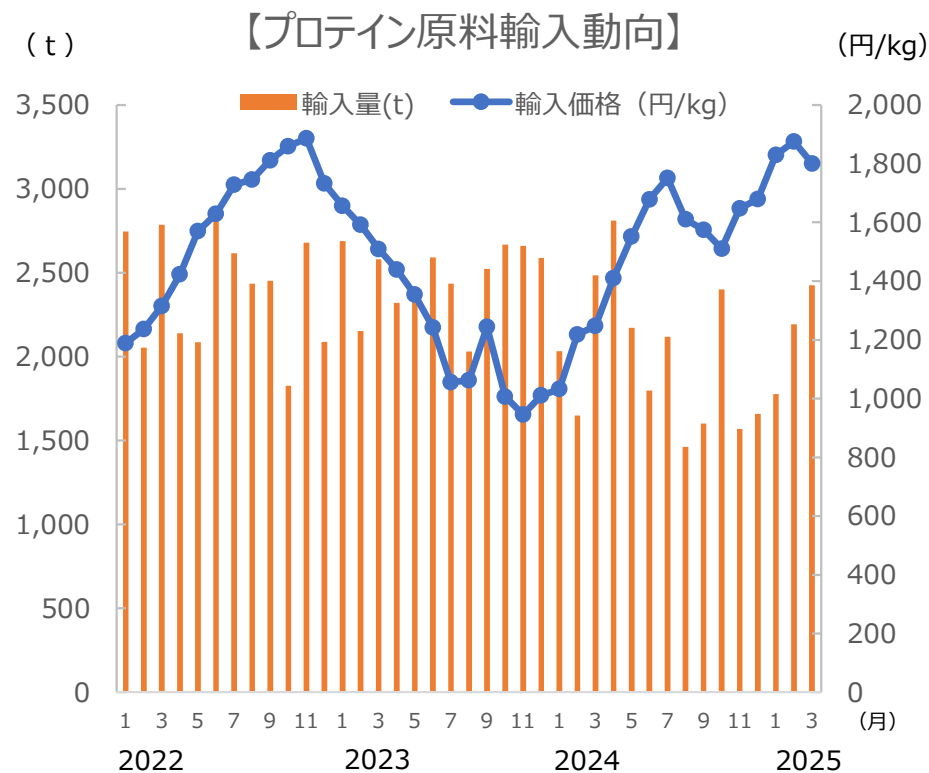
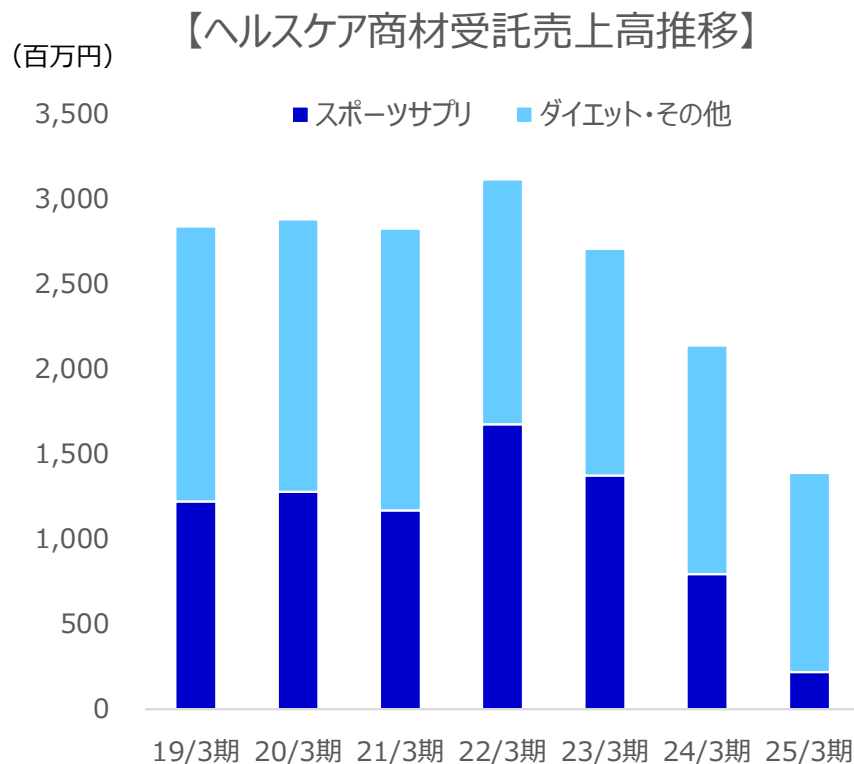
【月次動向】

(3ヶ月移動平均前年同月比伸び率)



③ヘルスケア商材受託

- ✓ 物価高の影響で消費行動の変化もあり受託低迷
- ✓ ダイエット・その他は底打ちだが、スポーツサプリは減少拡大



プロテイン原料：ミルクアルブミン（2以上のホエイたんぱく質の濃縮物を含む）

（出所）財務省貿易統計

- ✓ 原価率は、燃料コストが増加するも、値上げ浸透で、0.3ポイント改善
- ✓ 運賃や研究開発費が増加するが、経費削減等で販管費比率は0.1ポイント低下

(単位：百万円)

	2024/3期		2025/3期			
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	伸び率
売上高	19,137	100.0%	18,701	100.0%	▲436	▲2.3%
売上原価	14,953	78.1%	14,543	77.8%	▲410	▲2.7%
売上総利益	4,183	21.9%	4,157	22.2%	▲26	▲0.6%
販管費	3,493	18.3%	3,401	18.2%	▲91	▲2.6%
営業利益	690	3.6%	755	4.0%	+64	+9.4%
営業外損益	64	0.3%	60	0.3%	▲3	▲5.8%
経常利益	755	3.9%	816	4.4%	+61	+8.1%
特別損益	—	—	▲219	▲1.2%	▲219	-
税引前利益	755	3.9%	596	3.2%	▲158	▲21.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	495	2.6%	319	1.7%	▲175	▲35.5%

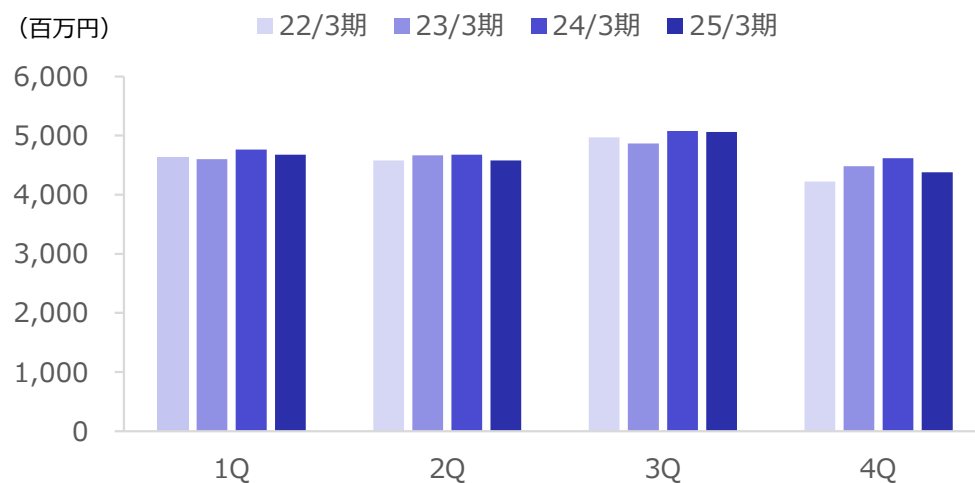
(百万円)

	24/3	25/3
営業外収益	145	165
営業外費用	81	104
(金融収支)	▲19	25
(為替差益)	58	61
特別損失	—	243
(事業整理損)	—	225

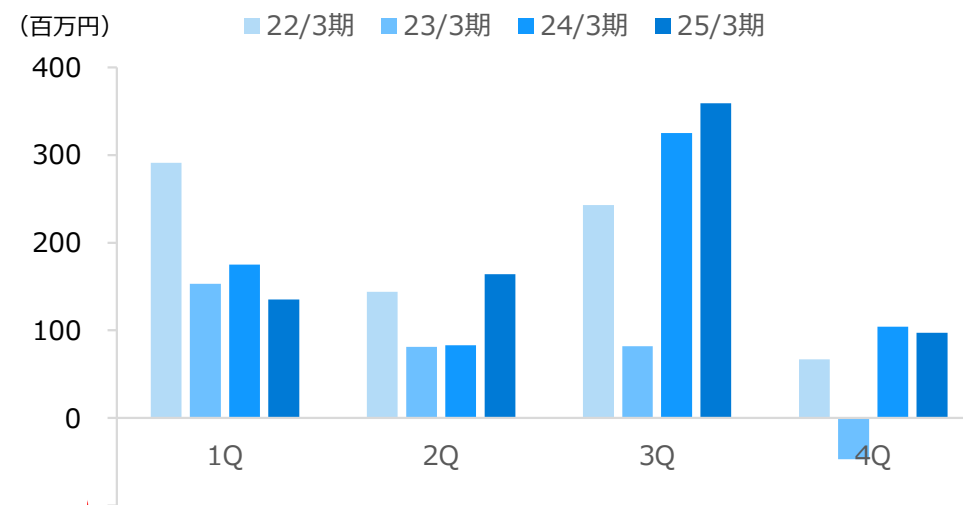
四半期業績推移

2025/3期実績

【四半期売上高推移】



【四半期営業利益推移】

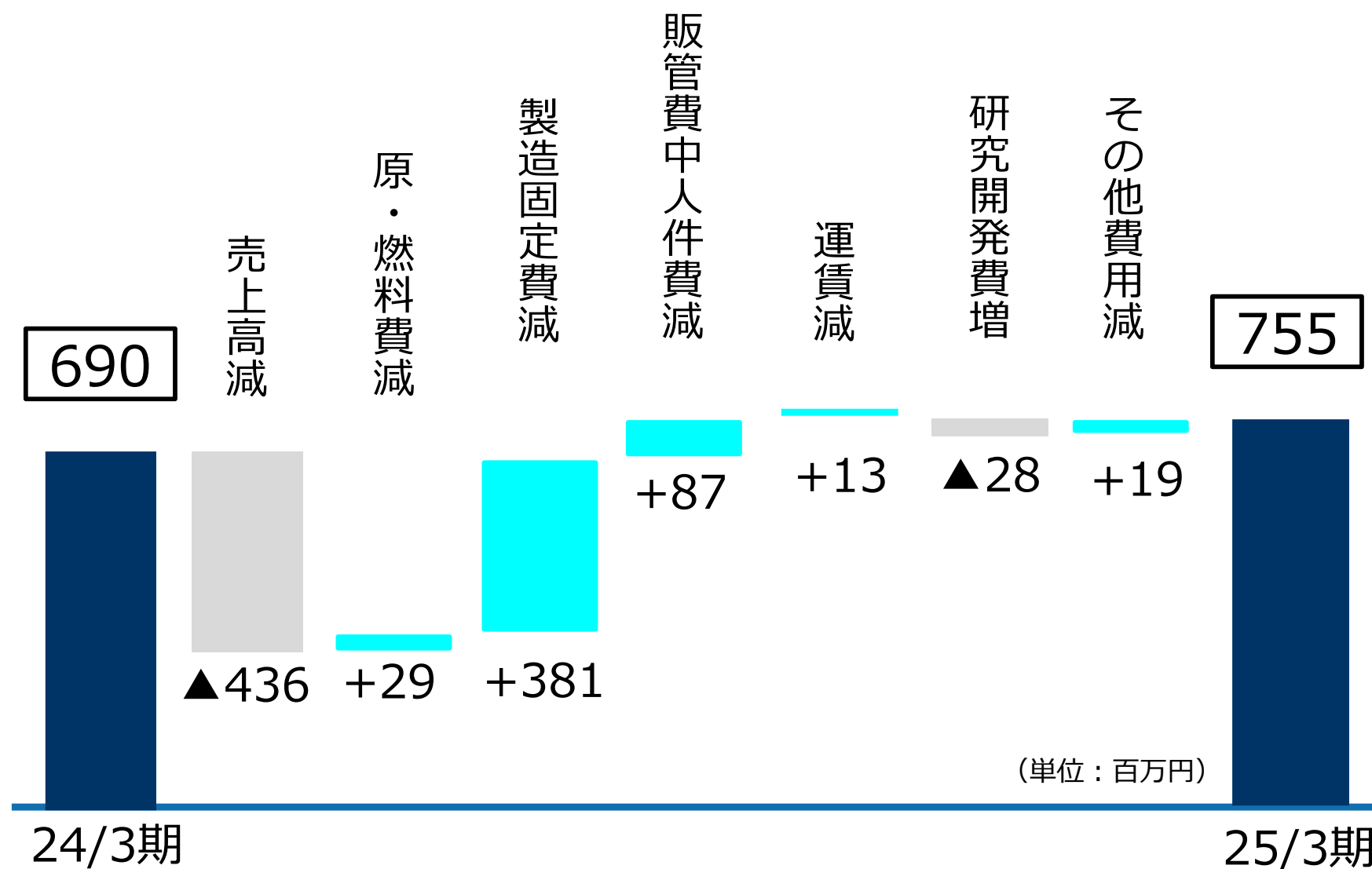


(単位：百万円)

	23/3期				24/3期				25/3期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	4,603	4,669	4,868	4,479	4,765	4,677	5,077	4,617	4,677	4,580	5,062	4,381
カaramel製品	988	998	1,076	958	1,038	1,019	1,176	998	1,091	1,131	1,277	1,017
乾燥製品類	1,438	1,381	1,616	1,480	1,416	1,495	1,683	1,590	1,667	1,702	1,875	1,708
組立製品類	1,046	1,095	938	910	1,007	811	984	960	780	722	910	827
冷凍製品	845	923	906	851	1,035	1,054	895	796	871	761	672	549
その他	283	270	330	277	267	296	338	273	267	262	326	278
営業利益	153	81	82	▲46	175	84	325	105	135	164	359	96

営業利益増減分析

2025/3期実績



(※)龍和食品の連結除外に伴い、売上高、営業利益が減少

要約貸借対照表

2025/3期実績

(単位：百万円)

	2024/3末	2025/3末	増減額
流動資産	11,847	11,173	▲673
現金及び預金	3,449	3,081	▲367
受取手形及び売掛金※	4,594	4,157	▲437
棚卸資産	3,434	3,779	+345
固定資産	11,158	9,486	▲1,671
有形固定資産	7,113	5,069	▲2,043
無形固定資産	729	550	▲178
投資その他資産	3,314	3,866	+551
資産合計	23,006	20,660	▲2,345

棚卸資産 +345 百万円
 ・商品及び製品 +419 百万円
 ・仕掛品 +21 百万円
 ・原材料及び貯蔵品 ▲96 百万円

※電子記録債権を含む

流動負債	7,818	6,682	▲1,136
支払手形及び買掛金※	2,405	2,204	▲200
短期借入金	3,809	2,898	▲910
固定負債	2,470	2,120	▲350
長期借入金	571	572	+0
負債合計	10,289	8,802	▲1,487
純資産合計	12,716	11,858	▲858

有利子負債 ▲909 百万円
 ・短期借入金 ▲910 百万円
 ・長期借入金 +0 百万円

⇒自己資本比率 57.3%
 (+5.6ポイント)

※電子記録債務を含む

要約キャッシュ・フロー計算書

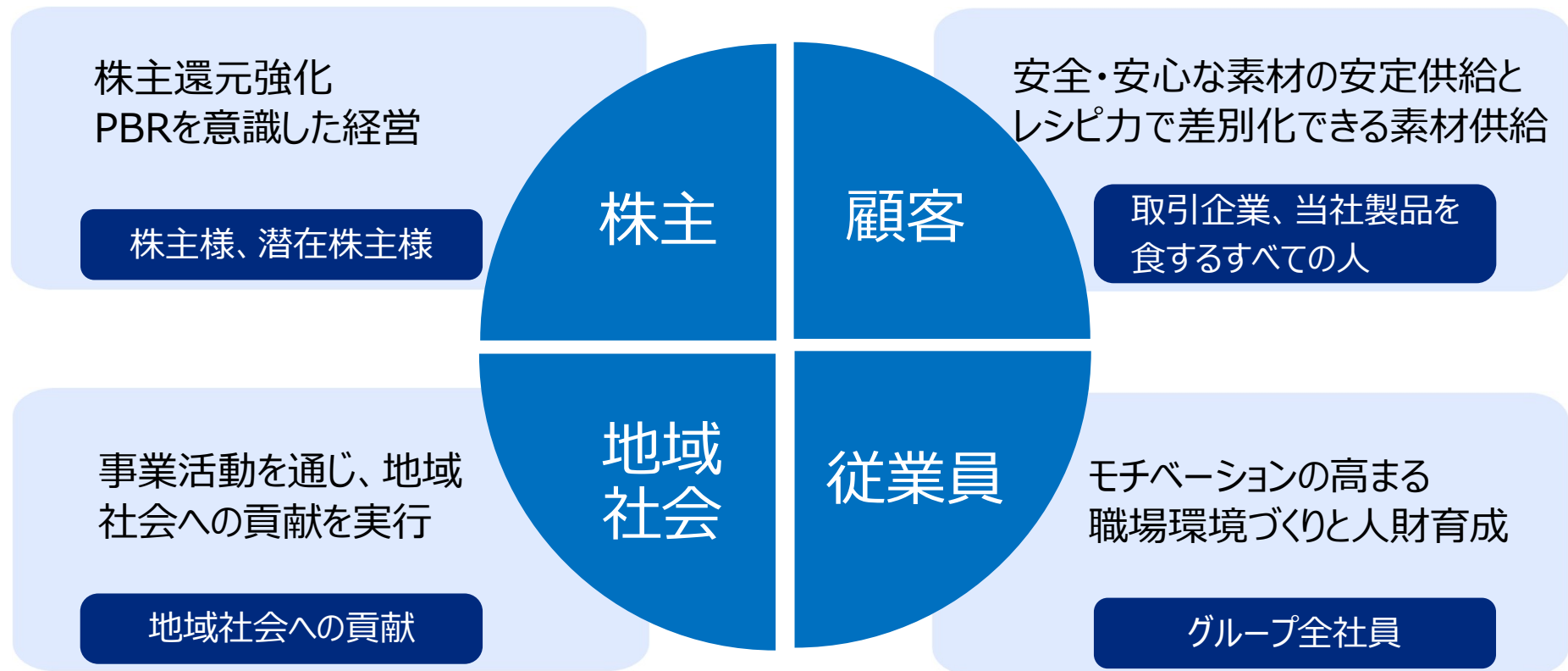
2025/3期実績

(単位：百万円)

	2024/3期	2025/3期
営業キャッシュ・フロー	1,372	1,010
税金等調整前当期純利益	755	596
減価償却費	932	817
売上債権の増減額（▲は増加）	▲424	420
棚卸資産の増減額（▲は増加）	92	▲325
仕入債務の増減額（▲は減少）	▲27	▲271
法人税等の支払額	▲170	▲308
投資キャッシュ・フロー	▲742	▲1,411
有形固定資産の取得による支出	▲480	▲463
財務キャッシュ・フロー	▲385	▲63
有利子負債の純増減額	▲171	151
配当金の支払額	▲170	▲170
現金及び現金同等物 期中増減額	267	▲417
現金及び現金同等物 期末残高	3,434	3,016

Ⅱ 企業価値向上に向けて

100年企業に向けた強固な基盤構築



より良いものを作り、顧客信頼度を向上させ、
収益を伸ばすことで株主様、従業員、地域社会への還元を増やす

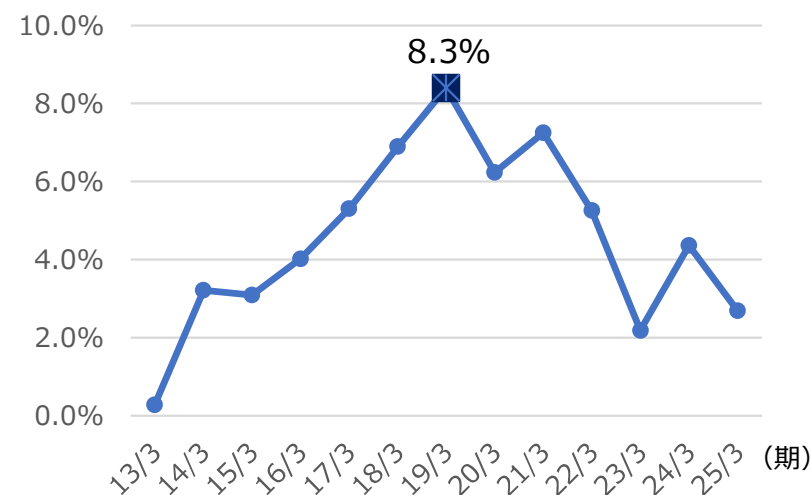
$$\text{PBR} = \text{ROE} \times \text{PER}$$

(株価純資産倍率) (自己資本利益率) (株価収益率)

現状のPBRは、0.7倍程度

- ROEがピークとなった19/3期中の2018年8月には、PBR1.5倍を記録
- 25/3期のROEは純利益の減少で2.7%に低下

【ROE推移】



主にROEを高めることでPBRの向上を図る

- ✓ ROE向上は、営業利益の拡大で達成させる
- ✓ PER改善は、投資家との対話強化が必要と認識
 - ⇒ 中期的な成長戦略や投資家が収益構造等を理解し易い情報開示を目指す

基本戦略

グループ経営力強化

- ◆ 単体経営からの脱却
- ◆ 子会社の管理強化

自社商材拡販

- ◆ 開発強化
- ◆ 提案営業強化

海外市場開拓

- ◆ 東南アジア市場向け

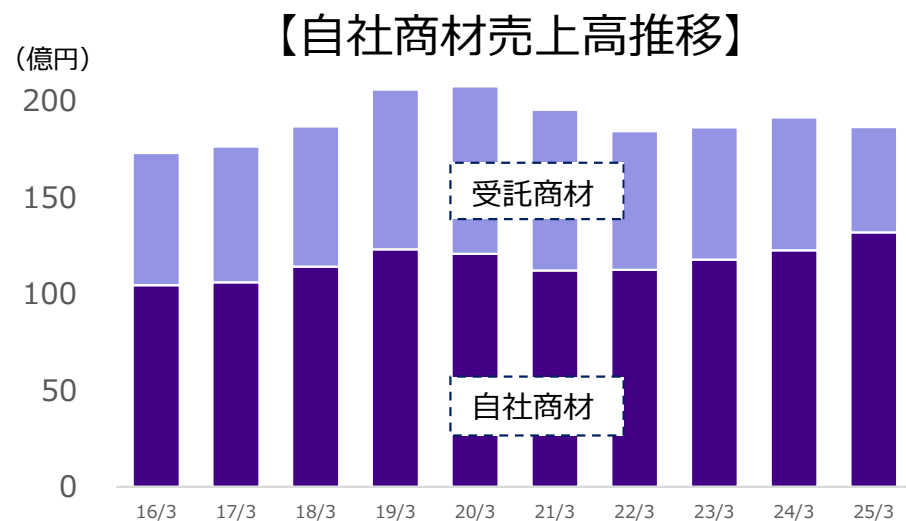
営業キャッシュフローの最大化を目指す

成長投資資金の確保と還元強化

注) 営業キャッシュフロー = 営業利益 + 減価償却費

海外事業戦略の一部見直し

- 龍和食品（中国）は、中国向け自社商材の開発が計画通り進まず、パートナーに経営権を移譲するが、日本向け製品の供給は継続へ。
- 福州仙波（中国）は価格競争に対応できず清算を決断するも、上海に販売子会社を新設し、ベトナム子会社からの輸入販売を主として中国市場を追求。



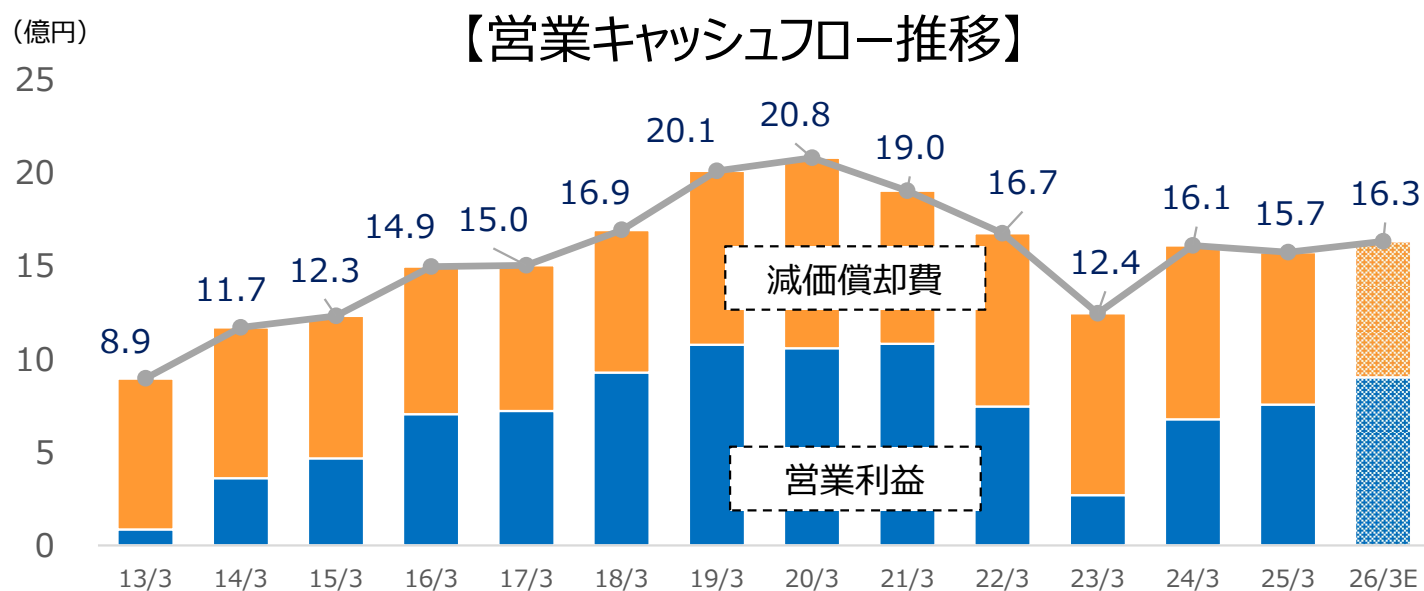
【海外市場向け売上高推移】

(単位：百万円)

	19/3*1	20/3*1	21/3*1	22/3	23/3	24/3	25/3*2
海外売上高	1,497	1,403	1,304	1,338	1,520	1,795	656
海外売上比率	7.3%	6.8%	7.2%	7.3%	8.2%	9.4%	3.5%
海外子会社	1,465	1,342	1,281	1,315	1,496	1,767	632
輸出	32	61	23	23	22	27	24

(注*1) 20/3期以前は旧会計基準、21/3期は新会計基準に基づく試算値

(注*2) 龍和食品は、25/3期2Qから連結除外

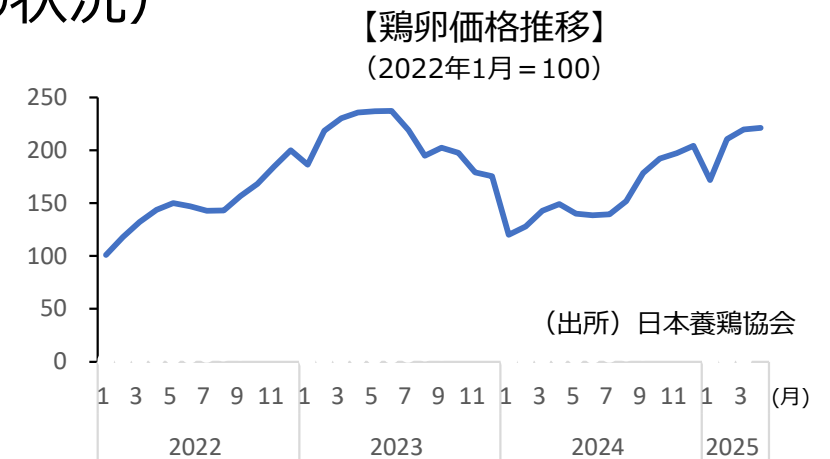


今期の重点施策

懸念材料

米国関税政策に起因した世界経済への影響・不確実性の高まり

- 国内外の異常気象による農産物価格への影響（原材料費上昇）
- 食品の値上げに伴う消費者心理への影響（販売量の減少）
- 鶏卵需給動向と価格高騰（足元、高止まりの状況）



今期の重点施策

高騰する原材料費に対応した価格転嫁（対象製品個別に対応）

中国事業の再構築に伴う海外戦略の見直しで、ベトナム事業の黒字化達成

新自社商材の開発推進と提案営業による拡販強化

中国事業は事業見直し、ベトナム事業は黒字転換達成できず

中国事業

- ・中国経済の低迷、消費者の節約志向もあり、過当競争激化で収益悪化
- ・龍和食品を持分法適用会社にし、100%子会社についても事業再編を決定

ベトナム事業

- ・SD設備が稼働開始したが、計画未達
- ・量産に向けた現地従業員の採用及び研修は進む

【海外事業収益】

(単位：百万円)

	23/3期	24/3期	25/3期		26/3期 予想
			実績	予想	
中国事業					
売上高	2,375	2,628	(※1) 131	(※1) 160	128
営業利益	▲204	10	▲33	▲5	▲19
ベトナム事業					
売上高	154	256	289	501	563
営業利益	▲123	▲50	▲79	35	35
【為替レート】					
(円/元)	19.48	19.82	21.02	21.50	20.70
(円/VND)	0.005728	0.006022	0.006187	0.006022	0.006038

(※1) 龍和食品は、連結除外に伴い、25/3期の収益予想ならびに実績に含めず

【海外事業従業員】

(単位：人)

	従業員数 (臨時雇用者除く)		出向者	
	23/12 末	24/12 末	23/12 末	24/12 末
福州仙波	11	12	中国事業	
龍和食品	100	—	4	2
SEMBA-NFC	5	5	ベトナム事業	
STVC*	40	49	6	6

STVC*: SEMBA TOHKA VIETNAM COMPANY LIMITED

今後の海外事業

中国事業

福州仙波を清算し、上海に貿易販売会社「上海新波食品科技有限公司(仮)」を設立

龍和食品

➡ 持分法適用会社（日本向け製品の供給を継続）

福州仙波

【主な生産品目】

カaramel製品

粉末製品

上海事務所

~~福州仙波~~

会社清算に向け手続き中

【販売子会社】

上海新波(仮)
(100%出資)

2025年5月設立(予定)

レシピ提案でカaramel市場を追求

ベトナム事業

海外市場の主幹生産拠点と位置づけ、中国市場向け商材の供給も担う

【製造子会社】

STVC*
(100%出資)

【主な生産品目】

カaramel製品

粉末製品

【販売子会社】

SEMBA-NFC
(60%出資)

一部仕入れ商材も販売

福州仙波の既存顧客向け製品の供給で稼働率向上

→ コスト競争力の強化を目指す

→ 製造原価改善で早期黒字化の実現

STVC* : SEMBA TOHKA VIETNAM COMPANY LIMITED

Ⅲ 2026/3期の業績予想

製品区分別売上高予想

【2026/3期予想】

- ✓カaramel製品は、提案営業推進で国内デザート向け需要増加を計画
- ✓乾燥製品類は、粉末茶が堅調、即席麺向け製品等の需要増加を見込む
- ✓組立製品類は、ヘルスケア商材受託加工が底打ちも、スープ類の需要堅調
- ✓冷凍製品は、国内冷凍和菓子および冷凍山芋は堅調

(単位：百万円)

	2025/3期			2026/3期予想＊			
	上期	下期	通期	上期(予)	下期(予)	通期(予)	伸び率
売上高	9,257	9,443	18,701	9,600	10,100	19,700	+5.3%
カaramel製品	2,222	2,295	4,518	2,300	2,500	4,800	+6.2%
乾燥製品類	3,369	3,584	6,953	3,500	3,850	7,350	+5.7%
組立製品類	1,502	1,737	3,240	1,550	1,750	3,300	+1.9%
冷凍製品	1,632	1,222	2,854	1,650	1,350	3,000	+5.1%
その他	529	604	1,133	600	650	1,250	+10.3%

- ✓引き続き原燃料費や物流費等のコスト上昇懸念はあるが、自社製品拡販と経費削減等を推進し、営業利益は19.1%増益を計画
- ✓為替差益が無くなるも、経常利益は10.3%増益を見込む

(単位：百万円、円)

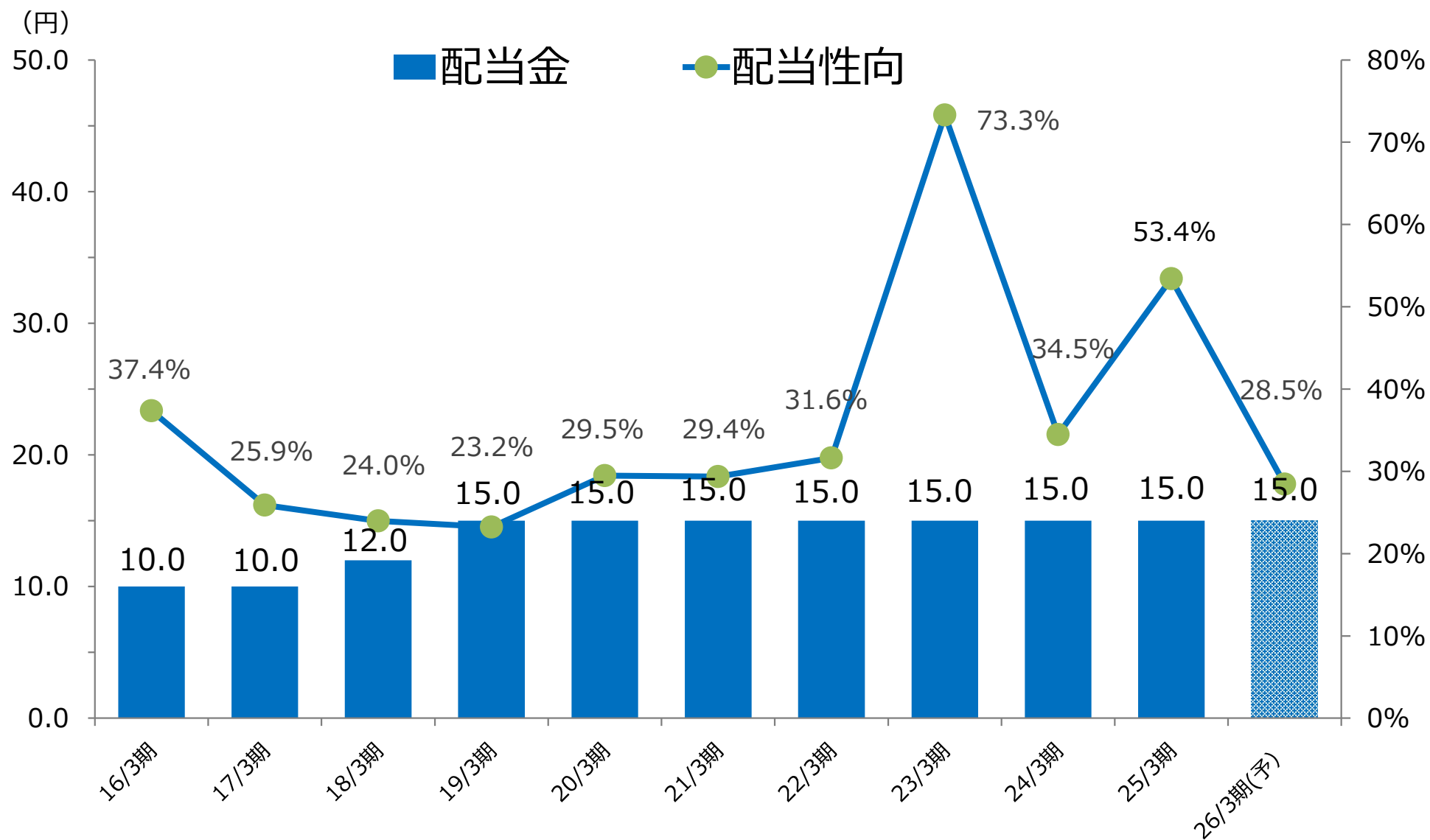
	2025/3期			2026/3期予想			
	上期	下期	通期	上期（予）	下期（予）	通期（予）	伸び率
売上高	9,257	9,443	18,701	9,600	10,100	19,700	+5.3%
営業利益	299	456	755	300	600	900	+19.1%
経常利益	405	411	816	300	600	900	+10.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	261	58	319	200	400	600	+87.7%
1株純利益	22.98	5.10	28.08	17.57	35.14	52.71	-
設備投資額			741			676	
減価償却費			817			731	
研究開発費			300			348	

〈為替レート前提〉 25/3期：21.5円/元、155円/ドル、 26/3期(予)：20.7円/元、150円/ドル

配当金予想

15円/株を据え置く

【2026/3期予想】



参考資料

- 創業商材。国内シェアはトップ
- 高付加価値のデザート・シラップ向け新製品開発に注力
- 海外顧客の取り込み強化で成長を目指す

着色用

- ・清涼飲料やアルコール飲料等の飲料向け
- ・ソースやタレ類、カレー等に幅広い需要

一般食品用

- ・プリン等のデザート向けやココ味調味料向けが主力
- ・高級洋菓子やアイスクリーム向け需要が拡大

一般食品向け製品例

カaramelソース
(ボトル品) (顆粒品)



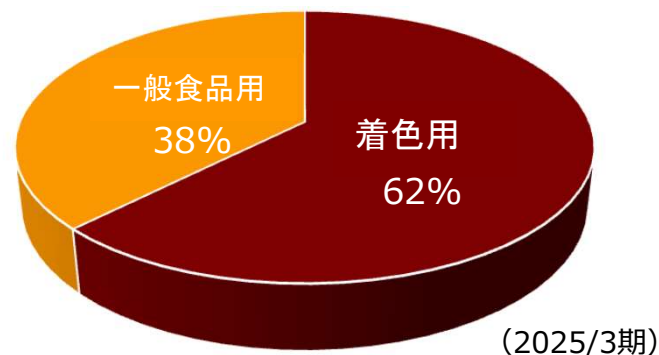
カaramelソース
(タブレット)



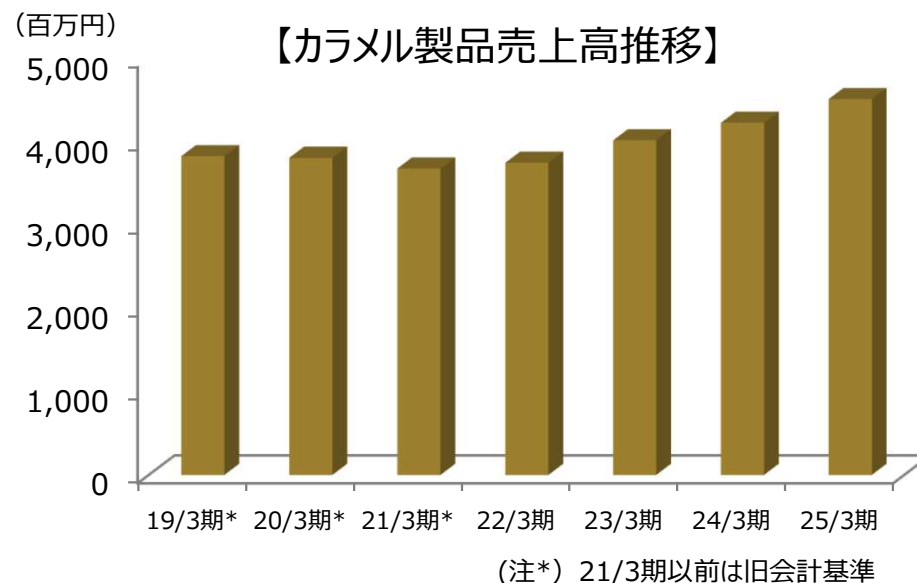
キャンディー・チップ



【用途別カaramel製品売上構成】



【カaramel製品売上高推移】



- 売上高の約80%は B to B、粉末製品と凍結乾燥製品を手掛ける
- 粉末製品は、粉末茶や粉末調味料（味噌や醤油）などを販売
- 凍結乾燥製品は、野菜ブロックや粉末山芋が主力

当社の主力製造技術

粉末製品

スプレードライ(SD)技術

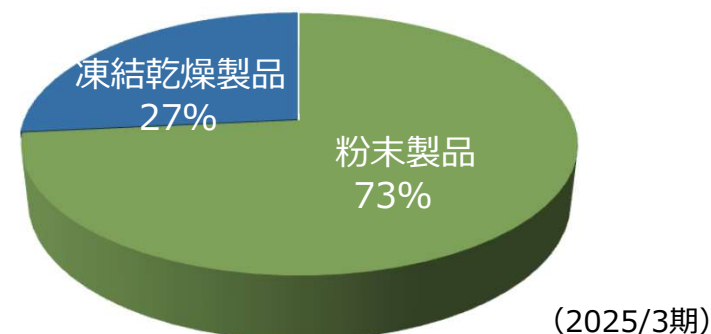
液状化した原料を霧状にし、加熱空気で瞬間的に粉末化する乾燥技術。乾燥工程が短く、大量生産に威力を発揮し、高品質で、低コストな製品の安定供給が可能。

凍結乾燥製品

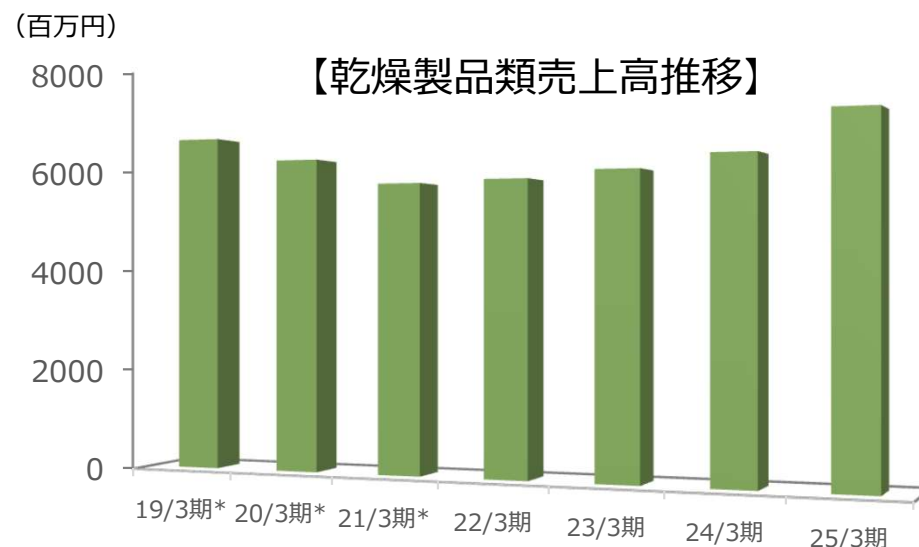
フリーズドライ(FD)技術

凍結させた原料を真空状態のもと、低温で乾燥させる技術。素材の色、味、香り、栄養をそこなうことなく乾燥することが可能。保存性や簡便性に加えて、機能性が高い乾燥方法。

【乾燥製品類売上構成】



【乾燥製品類売上高推移】



(注*) 21/3期以前は旧会計基準

- 冷凍和菓子はメディケア市場向け中心に、約50種類を販売
- 冷凍山芋は業務用・CVS向け中心。取扱量は業界 2 位

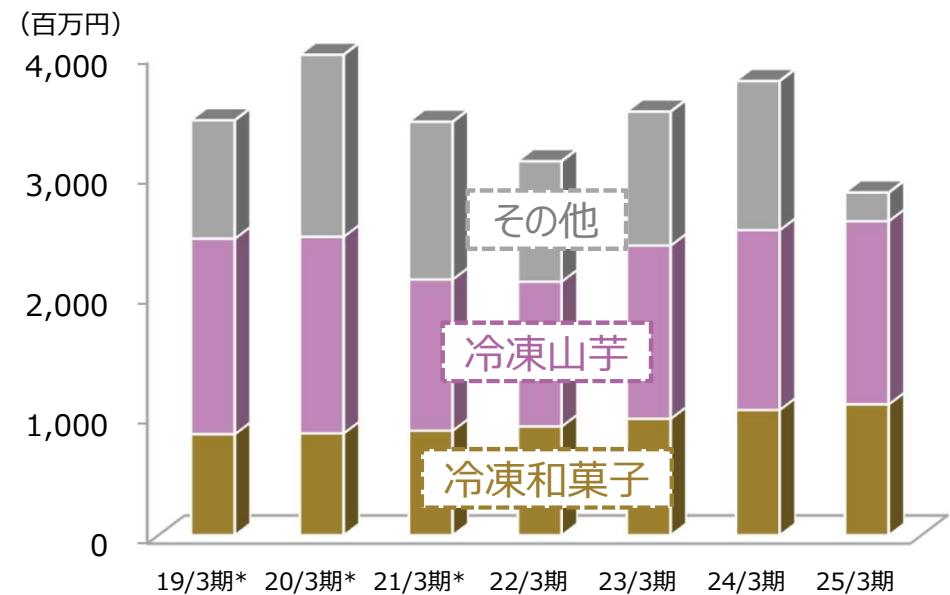
冷凍和菓子



冷凍山芋



【冷凍製品売上高推移】



(注*) 21/3期以前は旧会計基準

- 造粒製品とブレンド製品とも受託加工が中心
- 溶け易くななどのキーワードで提案営業を強化
- 23/3期からスポーツサプリが消費行動の変化等もあり大きく落ち込む

造粒とは

粉末食品の「溶けにくい」、「流動性が悪い」、「吸湿性が強い」等を改善し、より使い易い最終商品へ仕上げる。

造粒製品

スープ類、健康食品、スポーツ飲料、ココア等



ブレンドとは

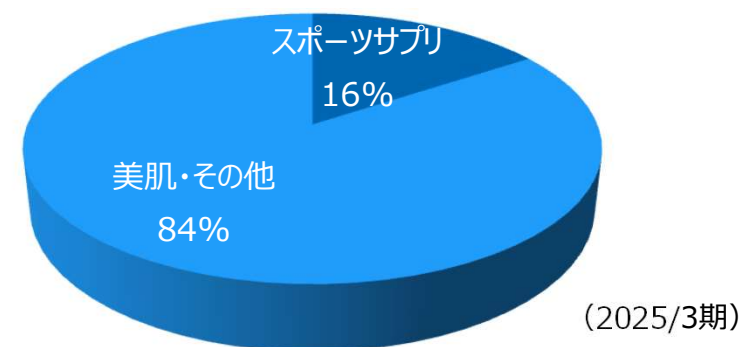
各種原料を混合し、原料の持ち味を活かした粉末状調味料やインスタント食品などを製造する。

ブレンド製品

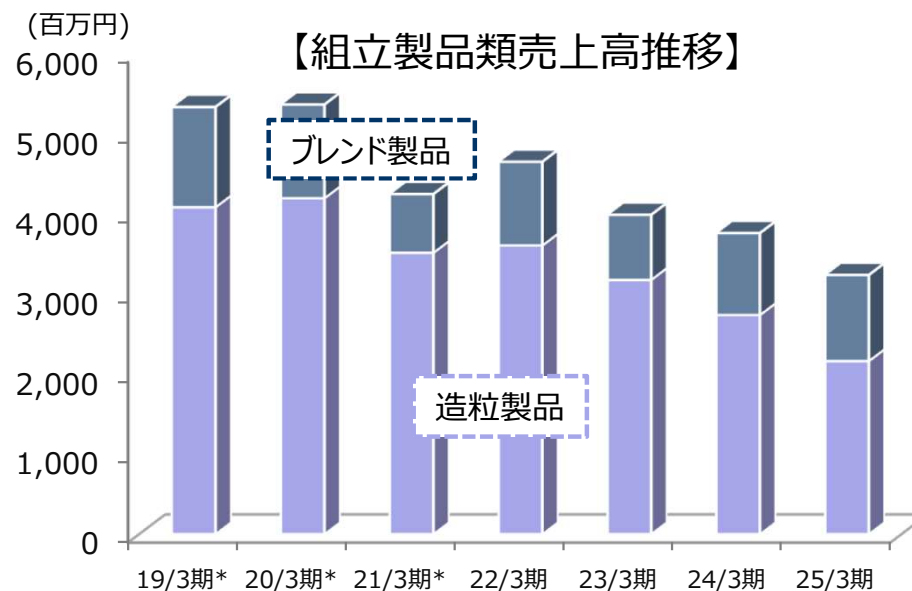
小麦粉ミックス、唐揚げ粉、みそ汁、粉末エキス等



【ヘルスケア商材の売上構成】

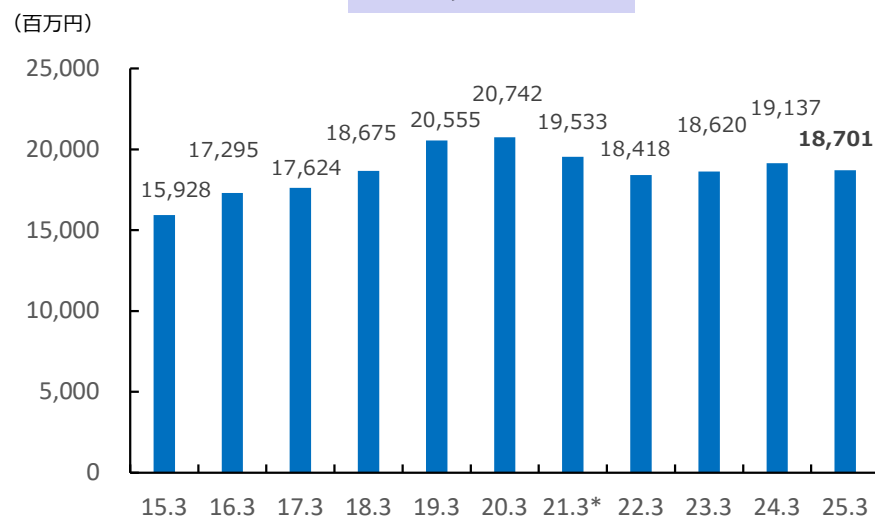


【組立製品類売上高推移】

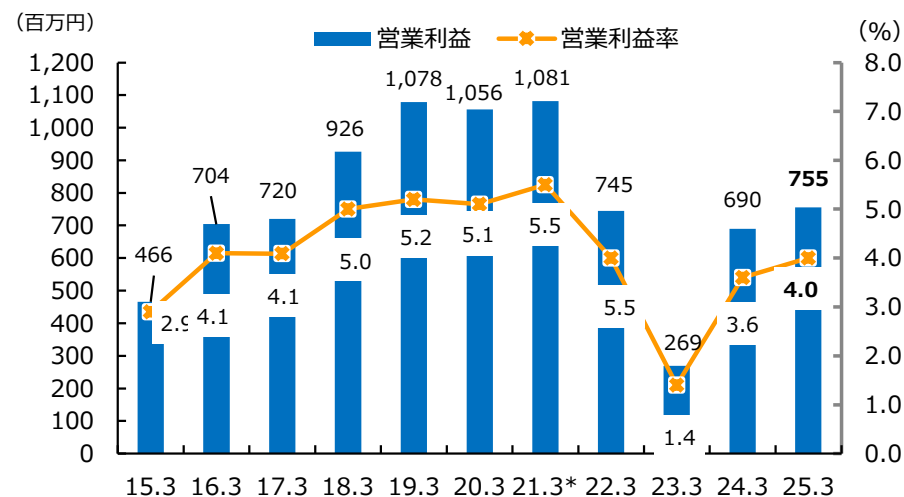


主要財務データ①

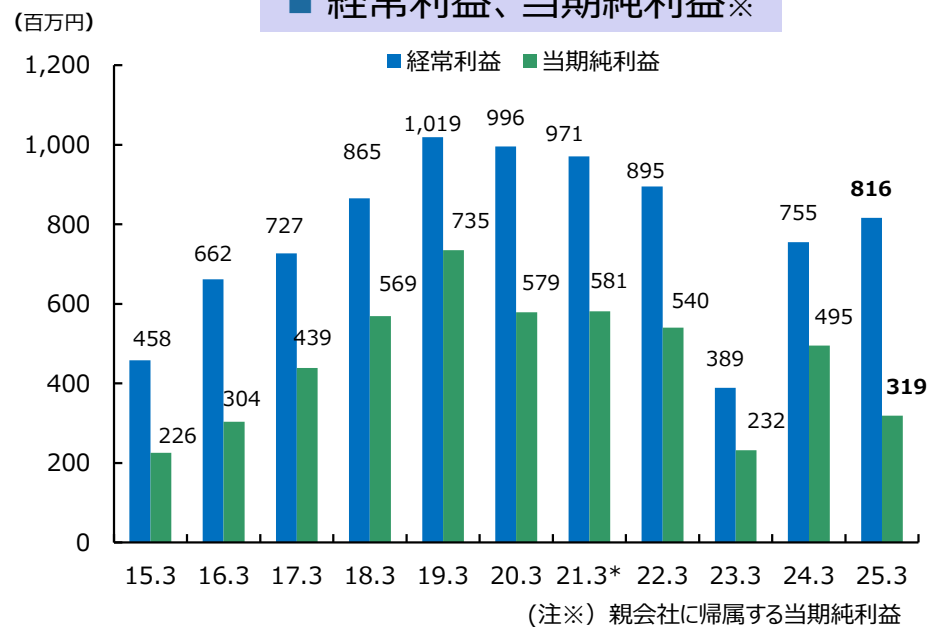
売上高



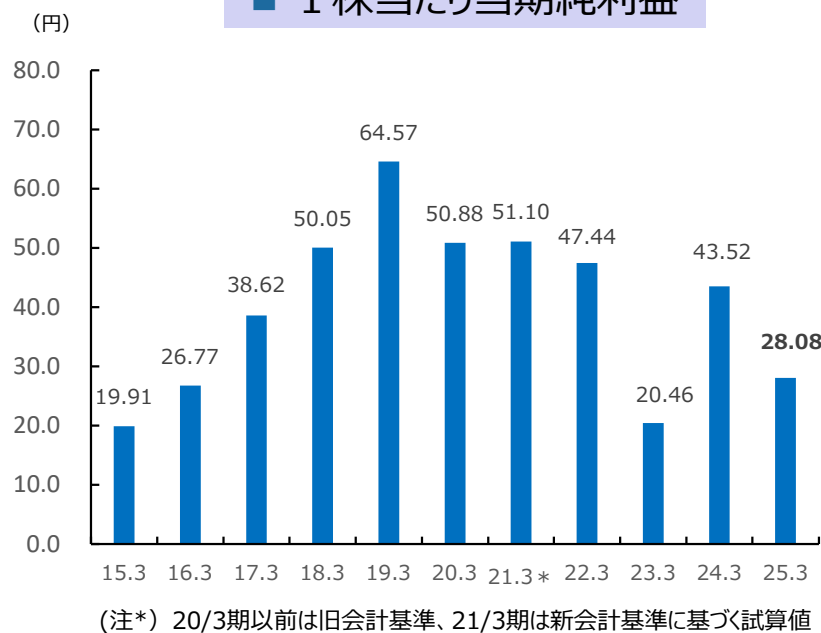
営業利益



経常利益、当期純利益※

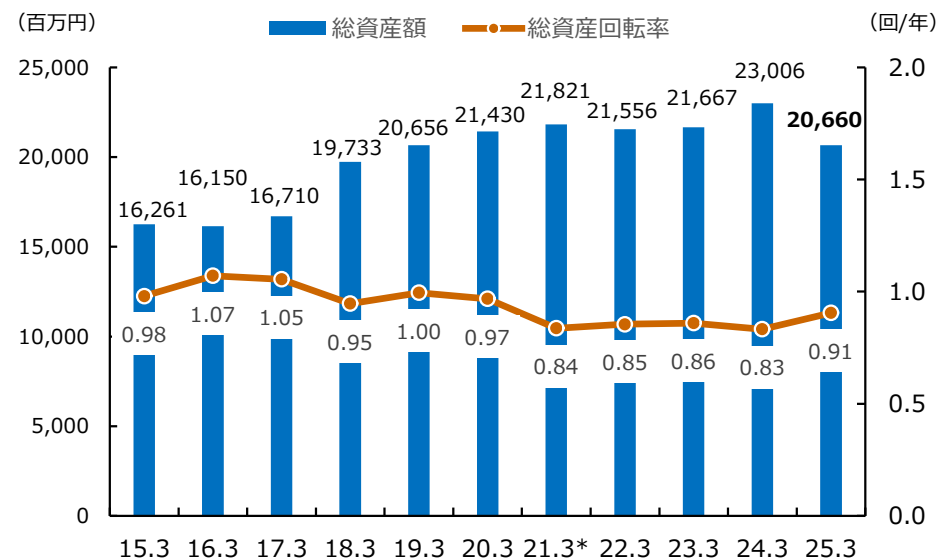


1株当たり当期純利益

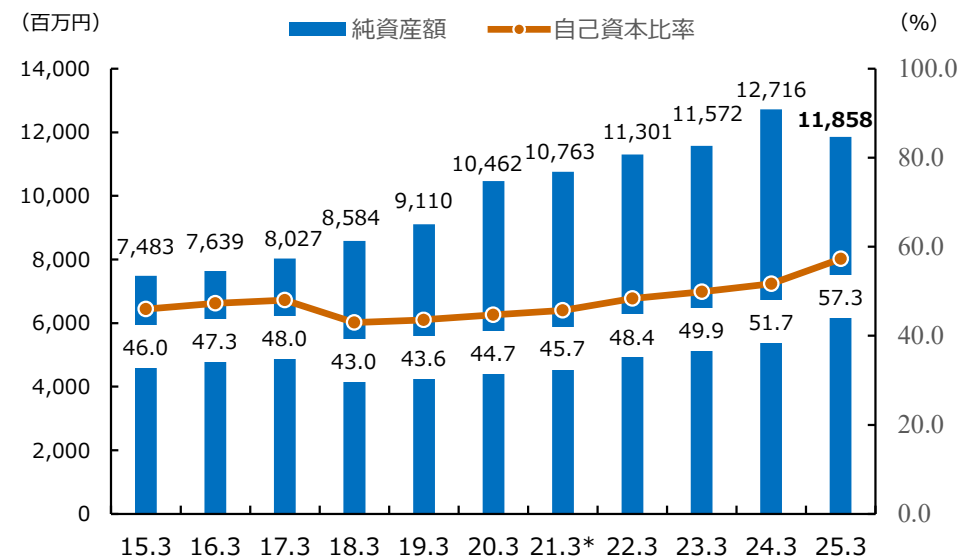


主要財務データ②

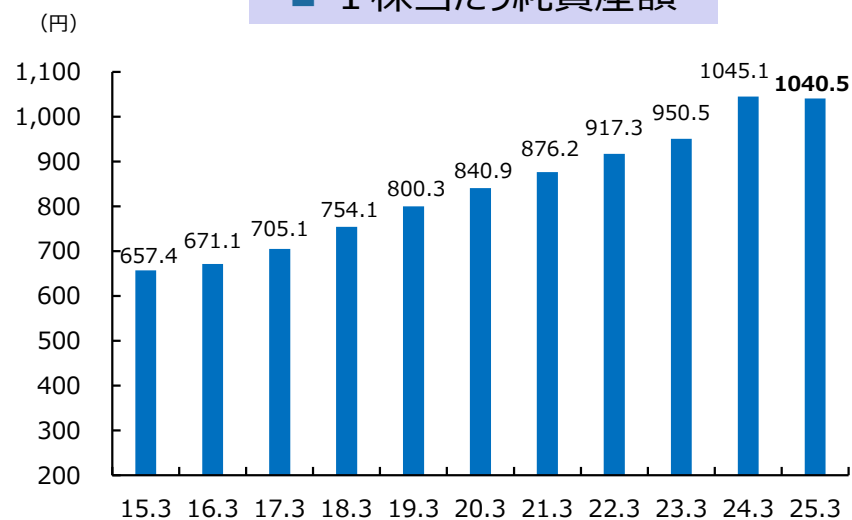
■ 総資産、総資産回転率



■ 純資産額、自己資本比率



■ 1株当たり純資産額



(注*) 20/3期以前は旧会計基準、21/3期は新会計基準に基づく試算値

〈お問い合わせ先〉
仙波糖化工業株式会社
総務部 IR担当

TEL: 0285-82-2171

FAX: 0285-84-3283

E-Mail : ir@sembatohka.co.jp

当社IRサイトもご覧ください。 <https://www.sembatohka.co.jp/>

本資料には当社の計画、見通し、経営戦略および経営方針に基づいた「将来予測に関する記載」が含まれております。この「将来予測に関する記載」には発表日時点までに入手可能な情報に基づいた経営判断や前提が述べられております。そのため諸与件の変化により、実際の業績は「将来予測に関する記載」とは異なる結果となる可能性があります。従って本資料における業績予想などの「将来予測に関する記載」が将来に亘って正確であることを保証するものではないことを、ご了解いただきますようお願い致します。なお、掲載内容について当社はあらゆる面から細心の注意を払っておりますが、それらには誤りやタイプミス等が含まれる可能性があります。